

令和7年度 宮の原中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

- 基本目標 『未来を拓く日本人を育てる』
- 具体目標（目指す生徒像） ・創造性に富む人 ・心豊かな人 ・最善を尽くす人
- 校訓 自主創造

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

☆テーマ 『豊かな心をもって、自律・実践する生徒の育成』 — 希望・創造・感動 の校風をめざして —
今、日本の社会は、大きな変化の時代を迎え、多くの若者にとって、夢を抱きにくい社会になったともいわれている。しかし、社会がどのように変化しようと、人がその社会を生きていく厳しさは今でも変わらない。まして、生徒や家庭を取り巻く状況は現在、日ごとにその厳しさを増していると同時に、教育現場への要求は限りなく、私たちの眼前に掲げられている。

だからこそ、その社会を生きていく生徒たちは、困難や試練に負けずに生き抜いていく強さとたくましさ、そして、しなやかさをもつこと、人への思いやりや感謝する心、感動する心などを育てていくことが重要である。

そのためには、中学生という多感な時代に「希望・創造・感動」の世界を広げてやるのが本校では必要であると考えます。希望は未来を創造し変えていく力、創造は生きる意欲と知恵、感動にはやる気を起こさせ、社会に生きて働く力や自己肯定感、生きる優しさを育む力がある。そのような校風をつくることによって、自律（自分で立てた規則に従って、自分のことは自分でやっていく力）・実践（粘り強く取り組み、それまでなかったものを作り出す力）する力が生徒一人一人に身に付くものと考えます。

その育成のために、全職員が生徒と正面から向き合って、生徒の一人一人の「よさ」を認め、ほめて伸ばす教育活動を実践していく。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○ 生徒の「生きる力」を育成するために個に応じた教育を進め、地域に根ざした活動を展開し、豊かな心、確かな学力、健康や体力の育成に努める。
- (2) ○ 教育目標の具体化を目指し、全職員が意欲と使命感を持って学校経営に参画し、生徒や保護者等の信頼や期待に応える学校づくりに努める。

【宮の原地域学校園教育ビジョン】心豊かで 輝く子どもの育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を目指し、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成を重視した指導を徹底し、個性を生かす教育の充実を図るとともに、生涯教育の基盤を培うことをねらって教育課程を編成する。
- (2) あらゆる教育活動の中で、また、学校・家庭・地域社会が一体となり、「学びあい、喜びあい、励ましあう」活動内容及び場を設定し、生徒と教師、生徒同士及び地域の人々との交流を深めながら、お互いのよさを認め合い、信頼し合い、豊かな人間関係の構築を図り、特色ある学校づくりを目指した教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
 - ・豊かな心をもって、自律・実践する生徒の育成 — 希望・創造・感動の校風をめざして —
- (2) 学習指導
 - ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 — ○発問・学習活動の工夫 —
- (3) 児童生徒指導
 - ・心を育む教育活動の推進 ~あいさつ・いじめ対策・生活のきまり~
- (4) 健康（体力・保健・食育・安全）
 - ・自分の健康や体力の向上・安全に高い関心を持つ生徒の育成
 - 教科体育・学校行事の充実と健康や安全意識の高揚 —

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答85%以上	① 『宇都宮モデル』を踏まえて、どの授業でも、「課題提示」と「振り返り」を習慣化する。 ② 生徒の追求意欲を高める教材・課題提示の工夫をし、協働的に課題解決に当たる活動時間の確保を行う。	B	【達成状況】教職員の肯定的回答は94.0%で目標を達成した。 【次年度の方針】○小学校と連携して、 <u>毎回の授業における「課題提示」と「振り返り」の習慣化</u> 、1人1台端末の有効活用を図る。 基本的な学習習慣や態度の育成(学業指導の充実)を行い、家庭学習で知識の定着、課題解決学習で知識の活用を行う機会をつくる。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答90%以上	① 通常の学校生活や学校行事など様々な機会を捉えて、思いやりの心の大切さを指導する。善行に対しては、学校長賞や学年主任賞の表彰をしたり、学校だより等で広報したりしていく。 ② 道徳の授業では、指導内容項目「B-(6)思いやり、感謝」の指導に重点をおいて、生徒の心に響く授業展開を工夫する。	B	【達成状況】教職員の肯定的回答は96.0%で目標を上回った。 【次年度の方針】道徳の授業で指導内容項目「B-(6)思いやり、感謝」の指導に継続して力を入れる。 特別活動など教育活動全般で豊かな感性と人権を尊重する心の育成を図り、実践力を育てる。
	A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答85%以上	① 道徳の授業では、指導内容項目「A-(5)希望と勇気 克己と強い意志」の指導に力を入れるとともに、特活や総学等においても、様々な活動に粘り強く取り組めるよう、前向きな声掛けやほめて伸ばす指導を心掛ける。 ② 「宮・未来キャリア・パスポート」の活用と小学校と連携した継続的なキャリア教育を行い、生徒が主体的に将来の目標に向かって諦めずに粘り強く学習や運動などに励み続けることの大切さを指導していく。	B	【達成状況】生徒の肯定的回答が84.6%で目標を下回った。 【次年度の方針】学校全体で「ほめて伸ばす」を合言葉に、生徒の自己有用感を育む。道徳の指導内容項目「希望と勇気」の指導に力を入れる。 総合的な学習の時間に、1年生では「職業人に学ぶ」、2年生では立志をとおして、3年生では進路をとおして「自己をみつめる」学習を行い、3年間の計画的・体系的なキャリア教育で、目標をもって粘り強く努力する大切さを繰り返し指導する。
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答90%以上	① 生徒会の保健体育委員会や生活委員会、安全委員会を中心に、健康体力の向上や感染症を含む病気やけがの予防、登下校時や校内での安全な生活について啓発していく。 ② 保健体育科の授業や、養護教諭や生徒指導主事、交通安全係からの指導をとおして、安全に関する知識を深めさせ、実践力につなげる。	B	【達成状況】生徒の肯定的回答が90.9%で目標を上回った。 【次年度の方針】授業や委員会活動で、健康や安全の大切さ、健康体力の向上や病気やけがの予防、安心・安全な生活について学び、実践的知識・技能を育てていく。特に、自転車のマナーやルールについては、保護者や地域住民にも協力を仰ぎ、徹底して指導する。

<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 宮・未来キャリア・パスポートの活用や、年間2回行われる教育相談で、各生徒のよさや成長を生徒や保護者に伝え、さらに高い目標をもって生活できるよう促す。</p> <p>② 「ほめて伸ばす」を教職員全体で実行し、自己肯定感をもって前向きに生活できるよう助言する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答が87.0%で目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】特別活動など教育活動全般で、生徒が主体的に活動できる場を設定し、より多くの経験をとおして、自己有用感や自己肯定感が持てるよう指導を工夫する。</p> <p>ホームページや保護者会等で学校の取り組みを広く周知し、教職員と保護者、地域が協力して生徒の成長を支えられるよう努める。</p>
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答80%以上</p>	<p>① ○小学校の「外国語活動」や「外国語」の指導内容の理解に努め、小中一貫教育・地域学校園の教科部会において9か年で育てたい力を明確にし、積極的にコミュニケーションがとれるように指導していく。</p> <p>② A L Tにはできるだけ生徒との交流を持ってもらい、授業中のみならず、休み時間等の雑談等でも英語でコミュニケーションをとるよう促していく。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答が70.9%で目標を下回り、市中学校の平均を3.9ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】<u>○A L Tを有効活用し小学校の「外国語活動」を通じて培ったコミュニケーションに対する積極的な態度を継続させる。</u>授業の中で「聞く」「話す」の活動をさらに充実させ、日常的に英語に触れる機会を増やす。</p> <p>視覚的な環境づくりとして、校内掲示の英語化やコーナー設置等を推進する。</p>
	<p>A7 生徒は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 総合的な学習の時間の「宇都宮学」では3年間を通して「宇都宮の良さ」を主体的に学習し、郷土を愛する気持ちや知識を積極的に発信できるよう指導する。</p> <p>② 道徳の授業において、特に指導内容項目「C- (16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する心」の授業を充実させていく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答が86.8%で目標を上回った。保護者の肯定的回答は昨年度より3.0ポイント向上した。</p> <p>【次年度の方針】総合的な学習の時間に取り組んでいる「宇都宮学」の指導の充実を図るとともに、学習の様子を各種たよりや学校ホームページを通して保護者や地域に発信し周知していく。</p> <p>社会科や道徳の授業でも「宇都宮の良さ」に気付かせる主体的な学習を取り入れる。</p>
<p>2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 各教室の大型テレビでデジタル教科書を使用したり、1人1台端末を活用したりするなど、デジタル機器を積極的に活用していく。</p> <p>② ○小中一貫教育・地域学校園として小学校低学年のうちからICT教育に力を入れ、パソコン等のデジタル機器の活用に慣れ親しませる。指導する教職員の研修はICT支援員を有効活用し計画的に行う。</p> <p>③ 図書室の利用方法を周知し、調べ学習等でデジタル機器と併用した積極的な活用を促す。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答が79.8%で昨年度より2.7ポイント向上し、市中学校の平均を2.8ポイント上回ったが、目標をわずかに下回った。</p> <p>【次年度の方針】情報担当の教員やICT支援員を活用し、教職員の研修を充実させるとともに、1人1台端末等のデジタル機器を、各教科・各領域だけでなくあらゆる学校活動において積極的に活用していく。</p> <p>図書や図書館の活用では、教科の授業内容に合わせて、資料や辞書の活用を積極的に行う。調べ学習は、1人1台端末と図書室の利用や書籍資料活用が併用されているので、今後も積極的な活用を促進する。</p>

<p>2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心を持っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① SDGs等について、社会科や理科、技術・家庭科、道徳科、総合的な学習の時間等を中心に、教科横断的な視点で関連を図り、問題解決的な学習を充実させる。 ② 学校全体のペーパーレス化や小まめな消灯、生徒会福祉委員会による「ペットボトルキャップの回収」や「ベルマーク」収集に力を入れ、活動の中で「持続可能な社会」に対する関心が高まるように支援していく。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答が77.5%で、目標を下回った。 【次年度の方針】リユースやリサイクルなど家庭生活や学校生活に根付いているが、生徒主体の活動を通して、さらに自覚を持って取り組ませたい。社会科や理科、道徳科、総合的な学習の時間等を中心に多面的に指導する。 今後も生徒会活動で、ペットボトルキャップの回収、ベルマークの収集、節電・節水キャンペーン等、具体的な活動を行い、体験的に学ばせる。</p>
<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 週1回の教育相談部会を充実させ、特別な支援を必要とする生徒の実態を共通理解していくと共に、具体的な支援策を全職員で周知し、実践していく。 ② SCや校内教育支援センター支援員、サポートルームやかがやきルームを有効に活用する。 ③ 校内支援の推進と充実のために、市教育センターなどの専門機関による相談機関や医療機関等との積極的な連携を図り助言を得る。</p>	<p>【達成状況】教職員の肯定的回答は98.0%で、目標を上回った。 【次年度の方針】毎週1回の教育相談部会を充実させ、特別な支援を必要とする生徒の実態把握を行うと共に、具体的な支援策を立て、全職員に周知し実践する。 支援にあたっては、SCや校内教育支援センター支援員、かがやきルーム担当、市教委や市教育センター、子ども家庭支援室、児童相談所等の関係機関、医療機関等からの助言、指導を十分に生かして実施する。</p>
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 全教職員が「いじめほどの生徒にも起こりうる」との認識のもと、生徒の授業中の様子や、休み時間・給食時等の様子をよく観察し、些細な変化や、周囲の好ましくない雰囲気等を敏感に察知するよう心掛ける。 ② いじめの未然防止に向けて、年に4回行う早期発見のための「明るい学校生活アンケート」や、生徒会生活安全委員会が行ういじめゼロ集会等の様子を学校・学年だよりや学校ホームページ等を通して保護者や地域に発信していく。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答が96.0%、教職員の肯定的回答は100%で、目標を上回った。保護者の肯定的回答は84.5%で、市中学校の平均を4.4ポイント上回った。 【次年度の方針】全教職員がいじめに関する正しい認識を持ち、些細な変化や、雰囲気等を敏感に察知するよう徹底する。気になる事象に対しては、学年主任、生徒指導主事等に迅速に報告・連絡・相談し、早期発見、早期対応、再発防止に努める。 また、教育相談後の記録用紙の工夫や保護者への啓発活動、生徒や保護者から相談しやすい体制づくりに努める。</p>
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 全ての生徒にとって居がいのある温かい雰囲気の学級経営に努める。 ② 〇小中一貫教育・地域学校園として小学校低学年のうちから不登校の傾向の見られる児童に対する適切な支援を小中が連携して検討、実施していく。 ③ 不登校傾向が表れてきた生徒に対しては、家庭と密に連携を取りながら、教育相談部会で状況報告や支援策の検討を行い、全職員の共通理解の基で個に応じた支援を組織的に迅速に進めていく。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答が95.3%、教職員の肯定的回答は98%で、目標値を上回った。 【次年度の方針】〇小学校との連携を強化し、生徒理解に努め、切れ目のない支援を行う。また、夏休みや冬休みなどの長期休業の後は重点的に対応し不登校の未然防止に努める。 家庭との連絡を密にし、毎週1回の教育相談部会を活用し、不登校傾向の見える生徒については早期にチームで対応策を検討し実施する。</p>

3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学級での係活動、生徒会活動、部活動等で、生徒の自主的な活動意欲を高め、責任感や向上心を育てる。</p> <p>② 校訓「自主創造」を学校行事や生徒会行事の企画運営に生かす。リーダー育成に力を入れ、生徒の自主的・主体的活動を積極的に取り入れながら、明るく活気のある教育環境の充実に努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答が94.7%で目標を上回った。保護者の肯定的回答は92.1%で、市中学校の平均を4.6ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】生徒が自ら進んで活動できる行事や学級活動等を計画し、生徒の達成感、自己有用感を高めていく。リーダー育成を行い、活気があり生徒の主体性が見える授業や行事等になるよう、実施内容や方法を検討する。</p>
3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化			
4- (1) 教職員の資質・能力の向上	<p>A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 「主体的・対話的で深い学び」の実現と分かる授業の展開を目指し要請訪問等の研究授業や全員1回以上の授業公開で研修を深め、授業力向上を目指す。</p> <p>② 少人数・習熟度別学習、T・Tによる授業の内容・方法等の研究、全校体制で取り組む特別支援教育の充実等を通して、個に応じた学習の推進を図る。</p> <p>③ 1人1台端末の活用や評価方法の研究に積極的に取り組む。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答が94.9%、教職員の肯定的回答は100%で、目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を互いに参観し、効果的な取り組みや改善点を授業力向上と授業改善につなげる。</p> <p>デジタル採点を取り入れ、教科ごとにテスト内容の分析、生徒一人一人を伸ばす指導方法と評価法を研究する。</p>
4- (2) チーム力の向上	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学校長を中心に「チーム学校」の考え方の基で、教職員が保護者や地域の力を借りながら、生徒のために一致団結して教育活動を行っていく。</p> <p>② 週1回の校務運営委員会において、行事や校務の改善点について提案し予め具体策を検討しておくことで、効率的に職員の共通理解を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】教職員の肯定的回答が86.0%で、目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】教職員が保護者や地域の力を借りながら、生徒のために一つの方向に向かって一致団結して教育活動を行っていく意識と環境をさらに整えていく。(OJTの充実)</p> <p>校内組織各部の部長が参加する校務運営委員会では、行事や校務の改善点について吸い上げた意見をもとに、より良い改善を効率的に進められるよう検討する。</p>
4- (3) 学校における働き方改革の推進	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 70%以上</p>	<p>① 全職員の出退勤時刻の把握を徹底しICTを有効活用し、削るべき仕事は思い切って削っていくなど、業務の効率化を図る具体策を講じていく。</p> <p>② ICT支援員など専門スタッフと連携し、教職員の負担軽減に取り組む。</p> <p>③ 働き方に関する研修を行い、学校の働き方改革への意識向上を図る。</p> <p>④ 時間外勤務が多い職員に対しては、個別に面談を行い、業務を効率化していくための指導・助言を行う。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】教職員の肯定的回答が64.0%で目標を下回った。市中学校の平均を18ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】生徒と向き合う時間の充実を図るため、教職員が自覚をもって働き方改革に取り組めるよう、意識改革の必要性を共有するとともに、具体的な方法を示し実践していく。</p> <p>業務の効率化を目指し、引き続きICTの効果的な活用やペーパーレス化を推進する。併せて、部活動の指導や体験活動では、地域人材の活用等に積極的に取り組む。</p>

<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① ○地域学校園各小学校との情報交換や連携の推進に努める。合同のあいさつ運動や学習指導上の目標やきまりの共有を行う。 ② 「小中一貫教育・地域学校園」の取組内容について理解してもらうため、各種たよりや学校ホームページなどに活動の様子を掲載し、広報と充実に努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】教職員の肯定的回答が 88.0%で、昨年度より 6 ポイント高く、目標を上回った。生徒・保護者・地域住民の肯定的回答も、昨年度より上回った。 【次年度の方針】○小中合同のあいさつ運動、小6 学校訪問時の交流等、生徒が直接参加する機会は継続実施する。 9 年間で育てたい力を明確にし、学習や児童生徒指導に取り組んでいく。</p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p> <p>5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 宮の原中学校地域協議会の協力を得て、教育活動の推進、地域の行事等への生徒の参加を推奨し、家庭や地域、企業等と連携を図った生徒の健全育成に努める。 ② 諸活動や取組内容について、学校だよりや毎月発行される各種たより、学校ホームページなどを積極的に活用する。 ③ 学校ホームページの情報は、こまめに更新し、学校の情報や状況を広く発信してさらなる協力を求めていく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】保護者の肯定的回答が 88.3%、地域住民 100%で、目標を上回った。 【次年度の方針】地域協議会の活動、地域の行事等への生徒のボランティア参加、地域の企業等と連携した社会体験や保育体験等の諸活動を各種たよりや学校ホームページに掲載することにより、今後も活動内容の周知や活動への理解と協力を求めていく。</p>
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 安全点検を徹底し、危険箇所等の修繕を迅速に行う。 ② 避難所初期支援マニュアルにおいて、本校体育館と西校舎が災害時の避難所になるため、空調施設の設置状況等を考慮し、より使用しやすい改定を行う。 ③ 学校敷地内、周辺道路の見回りを徹底し、危険箇所の発見に努める。校内施設等の整備工事に伴う対応を適切に行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】教職員の肯定的回答が 94.0%で、目標を上回った。 【次年度の方針】安全点検で発見された危険箇所や修繕箇所は、迅速に改善の対応をする。安全衛生委員会と健康安全指導部を中心に校内環境を整えると共に、生徒への安全教育に更に力を入れていく。市教育委員会や本校 P T A、地域協議会と連携しながら施設設備の安全対策にさらに取り組む。</p>
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業(授業準備も含む)を行うための準備ができてきている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① デジタル機器に関する、教職員の研修を充実させ、各教科・各領域だけでなくあらゆる学校活動において、さらに積極的に活用していく。 ② 1 人 1 台端末は各教室に教員用の予備機や予備充電器を整備し、忘れた生徒に対応できるようにする。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】教職員の肯定的回答が 94.0%で、昨年度より 6 ポイント高く、目標を上回った。 【次年度の方針】 授業での I C T 活用については、教職員・生徒ともに実践できている。一人一台端末等のデジタル機器をさらに効果的に活用するために、よりよい活用事例を集め実践していく。 欠席生徒へ、授業内容や次時の準備を Google classroom で共有することは継続して取り組む。</p>

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	<p>B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① ○日常の教育活動全般を通して、相互の人格を尊重し合う態度を育てるとともに、あいさつの大切さと意義を指導する。授業の始めと終わりのあいさつは、全体でやり方を統一し、丁寧に行わせる。</p> <p>② 定期的に実施している生徒会によるあいさつ運動や、教職員からの積極的な声掛け等を行い実践力をつける。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】保護者の肯定的回答は 93.9% で昨年度を 1.2 ポイント上回ったが、教職員の肯定的回答は 88.0% で目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】日常の教育活動全般を通してお互いの人格を尊重し合う態度、そのためのあいさつの重要性をしっかりと指導していく。<u>生徒会の定期的なあいさつ運動</u>や、教職員や地域協議会による登下校指導の際のあいさつ励行等に継続して取り組む。</p>
	<p>B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① ○同一步調で組織的に生徒指導を進める。生徒の規範意識を高めるとともに、リーダーを育成し、自立的な生活態度を育てる。</p> <p>② 計画的な巡回指導、生徒一人一人に目を向けた細やかな指導を通して、問題の早期発見・早期解決・再発防止に努めるとともに、家庭と連携しながら長期的な視野で生徒の変容を支援する指導体制作りを進める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答は 94.5% で、目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】生徒が安全に前向きに学校生活を送ることができるよう、教職員が日頃より、問題行動の予防・早期発見・早期解決・再発防止に向け、組織的に対応していく。また、学校行事や生徒会活動、部活動などを通して、リーダーの育成に力を入れ、自治的・自立的な集団となるよう支援する。</p>
	<p>B3 生徒は、学級での活動、生徒会活動、学校行事で、自己肯定感・自己有用感を育んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学級の係や委員会活動、給食や清掃等の当番活動を、責任をもって行えるよう、学級組織の作り方や指導を工夫する。</p> <p>② 自ら進んで協力して活動することの大切さを繰り返し指導し、良い活動状況に対してはほめてさらに伸ばす指導を実践する。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答が 83.6% で、目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】学校行事や生徒会活動では、教職員の支援のもとで生徒が自主的、自発的に活動できるように計画し、実践していく。活動後には振り返りを行い、自分の活動状況や成長と向き合える時間を設定する。</p>
	<p>B4 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心、年少者に対するやさしさの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 道徳の授業における指導内容項目「B-(6)思いやり、感謝」、「C-(14)家族愛、家庭生活の充実」の指導を充実させていく。</p> <p>② 高齢者に対する感謝やいたわりの心や年少者への優しさが現れた行為があった場合は紹介し、自分にできることから実践していくよう指導する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答が 96.5% で目標を大きく上回った。</p> <p>【次年度の方針】道徳の授業における指導内容項目「B-(6)思いやり、感謝」、「B-(14)家族愛、家庭生活の充実」の指導を充実させていく。</p> <p>地域の活動に積極的に参加することを促し、日頃より高齢者や年少者と接する場をつくり、実践的に学ぶ機会を大切にす</p>

<p>B5 教職員は道徳教育の推進を通して、温かい人間関係、心豊かな生徒の育成に努めている。</p> <p>【数値指標】 教職員・生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学年体制で取り組む道徳研究授業と全体で行う授業研究会を通して、教職員一人一人の指導力向上に努める。</p> <p>② 道徳の授業と日常の教育活動の関連を図った指導を通して、生徒の道徳性を育むとともに、学校生活の向上や生き方の探求に努めようとする態度を育てる。</p> <p>③ 学校ホームページを利用した情報発信をするとともに、授業参観や学校公開で道徳の授業を参観できる機会をつくり、学校の取り組みを紹介する。</p>	<p>【達成状況】教職員の肯定割合は98.0%、生徒の肯定割合は96.1%で目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】今後も道徳教育に力を入れ、年間指導計画や、授業の展開、評価法等を継続して研究し、教職員の授業力を高めていく。また、学校公開時に全クラスで授業公開し、保護者や地域からのアンケート結果をその後の指導に生かす。</p> <p>道徳の授業参観の機会を設定するとともに、学校ホームページで道徳教育の取組や情報を発信していく。</p>
---	--	---

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

今年度の結果において、特に肯定割合が高かった項目は、「主体的な学習態度 (A1)」、「思いやりの心 (A2)」、「いじめの未然防止 (A11)」、「時と場に応じたあいさつ (B1)」、「きまりやマナーを守った生活 (B2)」である。これらの項目は昨年度から高い肯定割合を維持しており、落ち着いた教育環境の中で生徒が安定して学校生活を送っている様子が見える。また、○「小中一貫教育・地域学校園の取組 (A17)」の項目においては、保護者・生徒・教職員・地域住民のすべてが昨年度より肯定割合が上昇しており、小学校との連携が円滑かつ効果的に機能していることがうかがえる。

一方、課題として、昨年度からの継続した課題である「デジタル機器や図書の有効活用 (A8)」は、数値の改善は見られるものの、依然として目標値 (80%) には達していない。よって今後も、一人一台端末や図書資料を効果的に活用できるよう、指導方法のさらなる工夫が求められる。「英語によるコミュニケーション (A6)」については、表現力の育成に向けた継続的な指導と、英語に親しむ環境づくりが必要と考えられる。また、生徒の「自己肯定感・自己有用感 (B3)」についても、生徒自身が成長を実感できるような体験活動の質の向上や、生徒の頑張りを認め褒めて伸ばす指導の継続が求められる。

7 学校関係者評価

今年度の結果において、特に肯定割合が高いのは、「思いやりの心 (A2)」、「健康・安全な生活 (A4)」、「活気のある学校 (A13)」、「安全に配慮した環境 (A19)」、「時と場に応じたあいさつ (B1)」、「きまりやマナーを守った生活 (B2)」、「高齢者や年少者へのやさしい心 (B4)」の項目であり、保護者・地域住民ともに90%を超える極めて高い評価を得ることができた。この結果から、生徒が明るく前向きに、優しく思いやりの心をもって秩序ある学校生活を送っていると受け止められていることが分かる。

一方で、肯定割合が目標の80%に達していない「生徒の宇都宮の良さの理解 (A7)」については、総合的な学習の時間『宇都宮学』の指導の充実を図るとともに、宇都宮の良さを主体的に学び、郷土を愛する気持ちや知識を積極的に発信できる力の育成を図る指導の工夫が求められる。加えて、道徳の授業では、『郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する心』の指導内容を充実させ、郷土理解をさらに深める指導が必要と考える。

地域住民の方からの評価はおおむね高評価であり、今後も地域協議会や地域未来会議、学校ホームページ等を通して、学校の取組を積極的に発信し、学校・家庭・地域が一体となった教育活動を推進していけるよう努めていきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

・本校の教育活動や学校経営については、全体的に肯定的に評価されている。特に、「主体的な学習態度（A1）」「思いやりの心（A2）」「いじめの未然防止（A11）」「時と場に応じたあいさつ（B1）」「きまりやマナーを守った生活（B2）」などでは高い肯定割合を維持しており、生徒が落ち着いた教育環境の中で安定した学校生活を送っている様子がうかがえる。保護者・地域住民からも、規範意識の高さや教職員との信頼関係に対して高い評価が得られ、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の基盤が確立されつつあることが示された。また、保護者・生徒・教職員・地域住民のすべてが、昨年度より上昇した評価項目は、○「小中一貫教育・地域学校園の取組（A17）」の項目である。今後も引き続き、小学校との連携を通じて義務教育9年間を見通した教育活動の実践に努めていきたい。

・昨年度からの継続課題である「デジタル機器や図書の有効活用（A8）」は改善傾向にあるものの、目標値である80%には未だ達していない。今後は、一人一台端末や図書資料を学習活動に効果的に組み込み、授業デザインや指導方法の工夫をさらに進める必要がある。授業内での効果的な事例を蓄積し、さらに家庭学習と連動させることで、情報活用能力や主体的学習力の向上が図られるよう取り組んでいきたい。

・生徒の「自己肯定感・自己有用感（B3）」の向上については、学校行事や生徒会活動、体験活動の質を高めることで、自らの成長や他者への貢献を実感させ、困難に負けない「強さ」と「しなやかさ」を育むことが求められる。

・「生徒の宇都宮の良さの理解（A7）」については、総合的な学習の時間『宇都宮学』や道徳授業を通して郷土の伝統や文化を尊重し、愛する心を育む指導を充実させる必要がある。地域協議会や地域未来会議と連携し、引き続き、地域ボランティア活動への参加を促すことで、地域社会の中で多様な人と協働し貢献できる人材の育成を推進していきたい。

・「いじめの未然防止（A11）」や「安全に配慮した環境づくり（A19）」については高い評価を維持しているが、慢心せず、些細な変化を察知する全教職員の共通理解を徹底する。また、不登校生徒への支援については教育相談体制をさらに充実させるとともに、特別支援体制として校内教育支援センター（サポートルーム）の効果的な活用を検討していく。今後も、関係機関や小学校との緊密な情報共有を基盤に、一人一人の状況に寄り添った「居場所」のある学校づくりに継続して取り組んでいきたい。

・「勤務時間の意識と業務の効率化（A16）」については、教職員の肯定割合が低く、依然として改善の余地がある。特に中学校においては、部活動改革が時間外勤務削減の大きな鍵であり、早急の課題である。令和5年度から行っている本校独自の「部活動時間変更の取り組み」は、生徒の放課後時間の有効活用、教職員が生徒と向き合う時間の確保の効果から、今後も改善しながら継続して取り組んでいく。さらに、部活動の地域展開の取組についても計画的に進めていきたい。

次年度は、これらの課題に重点を置きつつ、主体的・協働的な学びを深め、心豊かで自律的な生徒の育成をさらに推進するため、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の充実を図り、生徒の成長と地域社会からの信頼の両立を目指す教育環境づくりに努めていきたい。